もぞか

盆地のミニ情報

１１月号

編集・発行
熊日多良木販売センター
㈹小出堅太郎　小出忠紹
石田敏郎　尾前竜二　那須信一
球磨郡多良木町大字多良木 356-1
TEL ４２－３３５５
FAX ４９－１７２６
http://www.taragi.com/
当社のホームページ・ブログをご覧下さい

今年も多くの寒蘭が出展

秋の山野草展（主催：球磨川山野草愛好会、清水正秋会長）が１１月８・９日に岡原保健センターでありました。寒蘭が１２０鉢出展されましたが、今年は天候が悪く花も小さくあまり良くなかったと言うことでしたが、会場に入ると香りも良く沢山のお客さんで賑わっていました。来場者の中には、奥さんが湯前町出身という縁で毎年岡山県から参加されているご夫婦もいらっしゃいました。総合優勝には、村田大作さんの、神曲（しんきょく）（写真右）が受賞しました。

園児紹介　多良木町立第一保育所

きく組　１６名　担任　川越 こずえ先生
吉鶴 みどり先生

おしゃべり大好きで、元気いっぱいの子ども達です。
今は、最後の発表会に向けて毎日練習をがんばってます。

金メダル獲得おめでとう!!

今月１日から３日まで開催された「２０１４第６回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・福岡」に多良木中学校３年の前田涼平君が、熊本県の代表として出場され、結果報告を兼ねて同町の松本照彦町長を表敬訪問しました。前田君は陸上競技の１００メートル走と、４人×１００メートルリレーに出場。結果は１００メートル走は惜しくも４位とメダルを逃しましたが、４人×１００メートルリレーでは第３走者を務め、見事金メダルを獲得しました。

スペシャルオリンピックスとは、知的障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングと、その成果を発表する国際的な競技会。この結果も素晴らしいですが「自立を目指し、輝く場を提供する」ことを目的とする同大会に出場することで、前田君は大きな自信を得ることができ、同席した母・博美さんも「大きな成長。とても変わってきた」と、話されていました。松本町長も「今後も積極的に（大会などに）参加することで、自身の励みにして欲しい」と、更なる活躍を期待されていました。また前田君も「人と話す機会が多かったので、帰ってきて友人と話せるようになったのが良かった。勇気が出た」と語っていました。

交流会をしよう

秋晴れの天気に恵まれた１１月４日～６日の３日間、本校中学部では多良木中、あさぎり中、球磨中の特別支援学級の生徒、及び、多良木町の古友会の方々とグラウンドゴルフを通した交流会（交流及び共同学習）を行いました。グラウンドゴルフは二人一組で交互に打つ、特別ルールで行いました。見事ホールポストにボールを入れると、笑顔でハイタッチをするなどお互いに喜び合う姿がとても印象的でした。また、ホールインワンを出す生徒もおり、会場全員から拍手と歓声が聞かれました。古友会の方からは手を取って教えていただく場面もあり、心温まる交流会となりました。

今回の交流会に向け、本校生徒は案内状や歓迎の意を表す看板を作り、また当日は司会進行等も行いました。自分達で交流会を計画することで、より意欲的に活動する姿が見られました。

今後も地域の方々との交流及び共同学習を計画していきたいと思います。

（原稿・写真提供：球磨支援学校）

木希記

◆早いですね。今年もあと5週間あまり。関係者の多大な尽力で拡大を防げた鳥インフルエンザ、槻木小の再開、高校再編問題などなど、たくさんのニュースが人吉・球磨を駆けめぐりました。◆熊日が報じた大小の記事から、多良木をメーンにしたいろはかるたで振り返ってみましょう。後半は来月号で。◆い＝一番きれいな川辺川、ろ＝ロンドンでの体験講演、は＝パネル絵で名所ＰＲ、に＝二重ロック心がけて、ほ＝ホークスツアーで大声援、へ＝ヘリで車両輸送テスト、と＝匿名で図書カード寄付◆ち＝地域で南凰ちゃん歓迎、り＝力真幕下優勝、ぬ＝濡れながら歓声川下り、る＝ルーシーダットンでいい汗、を＝太田家住宅で書道講座◆わ＝和綿の里に電動糸繰機、か＝拡大防いだ鳥インフル、よ＝４０００万円町に遺贈、た＝タブレットで学力向上へ、れ＝冷凍ホウレンソウ品質上々、そ＝総合学習で排水路清掃◆つ＝槻木地区上げ運動会、ね＝猫寺などのツアー企画、な＝ナンジャモンジャに人気、ら＝落成幸野溝水戸神社、む＝無病息災祈り札所巡礼（Ｘ）

たらぎ文化財カルタ vol.19

「多良木町菅原神社」　　多良木　中原

『天神さん』と親しまれている天神社は、湯前境にあり境内の東側を幸野溝が流れています。天神社は、幸野溝開削の翌年の宝永３年（1706）に高橋政重によって創立されています。元文６年（1741）以後数回造り替えられていますが、隣接する福田寺とともに幸野溝開削によってできた新田村の中心の場所に造られました。もともと天神社は、地域の天災地変や病疫除けの守り神として勧請される神様です。ですから新田村の守り神として鎮座されたものですが、新田村は寛政１年（1789）に湯前、久米、多良木に分割されています。天神社の鳥居は享保１２年（1727）に、宮司大神氏、村講中主取等１９人によって造られています。

命の大切さを学ぶ

１１月１２日に、専立寺保育園（季平聖也園長）きらきら館にて、命の大切さを学ぶ教室が行われました。人吉保健所の職員さんによる講習で、熊本県の取り組みのひとつとして開催されました。全国的に小さい子供達が犬に噛まれたりするなど、飼い犬や動物（ペット）によるトラブルが多発するなか、「犬の扱い方を学ぶ」と題して、保健所の職員さんに詳しく、丁寧に教わりました。園児達も、犬の触り方やマナーなど真剣に聞き、実際に職員さんが連れてきた犬の扱いがとても上手になりました。指導にあたった人吉保健所の吉島さんは、「動物も人間が怖い。間違った接し方をすればびっくりして噛んだりします」「マナーを守れば大丈夫」と話されていました。

また、園長の季平さんは「人から命の大事さを教わることはあるが、実際に動物にふれあい命の大切さを学ぶことは、とてもいい経験です」と今回の講習に感謝されていました。

おはなし好きな人いらっしゃい！

熊日童話会球磨支部（那須律子会長）が主催する「第６２回熊日童話会　秋の童話まつり」が今月１５日に、多良木町多目的研修センターで開催されました。「おはなし好きな人いらっしゃい！」の呼びかけのもと、今年度は「自分の個性にあったお話（民話を含む）を深めよう」と、テーマを掲げ活動されてきました。今回も多良木町内の各小学校代表４名による童話発表、支部会員のお話や、パネルシアターにマジックショー。久米小学校器楽部のハンドベル演奏、第一保育所園児による和太鼓の披露など、多彩なプログラムが用意されており、聴衆らを楽しませました。その中でも童話発表は年々レベルアップしてきており「人権や命の大切さなどをテーマに選ぶ児童が多いが、発表を聞いて涙を浮かべる方も多かった」と、同副支部長の村山悦子さんも、発表レベルの高さに目を細めておられました。また冒頭に多良木町から、図書行政について２点報告がありました。まず平成２５年度に町の図書室から本を３００冊以上借りた方が３名、２００冊以上が６名、１００冊以上が３８名と、図書室利用者数の増加がみられているそうです。続いて童話発表者の１人である、黒肥地小学校６年生の瀬戸山心香さん（写真左）が、先月開催された「第５３回熊本県児童発表大会」で、見事「熊本県学校図書館協議会長賞」を受賞されたそうです。「本離れ、活字離れ」が叫ばれていますが、多良木町の図書事情は非常に活気づいているようです。

皆さんもまずは１冊いかがですか？

多良木警察署だより

ひのくにピカピカ運動のお知らせ

熊本県下全域では「ひのくにピカピカ運動」を実施中です

１　運動の期間

平成２６年１０月１５日～平成２７年２月２８日

２　推進重点

○ 歩行者は・・・

反射材の活用と明るい服装でドライバーから目立つようにしましょう

○ 車は・・・

夕暮れ時には前照灯を早めに点灯し、自車の存在を周囲に知らせましょう

前照灯の上向き下向きこまめな切り替えで歩行者の早期発見に努めましょう

（原稿提供：多良木警察署）